



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『一人で木を倒す』

専門コース第二回開催報告

慣れた人が事も無げにやっていることでも、さてそれを真似しようとしてもなかなかうまくいかない、そんなことはたくさんあるものです。伐倒もそのひとつかも知れませんが。

樹冠を見上げる時、倒そうとする木の、重心の方向や、その周りにかかってしまっている木があるかどうか、そして集材に好都合な方向は、な



保科先生とイントラ野口が見守るなか、小川さんが大物に挑戦



何度作り直してもよい。何しろ受け口を正確に

なにぶん自然相手です。で予期せぬ事が起こることも考えられます。一人での山仕事は慎むべきですが、伐倒は基本的には一人で行う仕事です。かかり木になった場合も、どのような方法ではず

「初心忘るべからず」も是非お忘れなく。



受け口が決めた方向に向いているかの確認

「やはり『習うより慣れる』かな。そして保科先生が常々言われていること。『少し慣れてきたころが一番怪我をしやすい時期です』すなわち『初心忘るべからず』も是非お忘れなく。

イントラ川島のストレッチ体操のあとチェーンソーの目立て。今日の最初は自分で研いだチェーンソーを使って切り倒してみる。島崎先生は刈り

どを即座に判断しているのです。さらに、普通に切れば倒れるのか、くさびを打つ必要はあるか、またはロープ、あるいは牽引具が要るのか。そういったことを決めた後チェーンソーにより伐倒にはいるのですが、切りながらも常に、当初の考えどおりにことが運ばれているかどうかの検証も怠りません。

「プロのように数をこなすには相当の経験が必要になってきますが、われわれの目標は、自分ひとりで安全に木を倒すこと。専門コースに参加してくれた方はできればここまでいってほしいなと思っています。」

梅雨本番中の開催で前日は激しい雨。雨バージョンのスケジュールも作るには作ったけれど、できれば降らずに伐倒練習を行いたいという願いがかなって曇り空。どなたが梅雨空を追い払ってくれたのかな？

専門コース 第二回開催日程
 7月4日(木)～6日(土)
 一日目 7月4日(木)
 8時30分 島崎先生の山小屋に集合。都合で二人の方が欠席で参加は九人。先生方の挨拶、班分け、日程説明。

12時 昼食
 1時 伐倒再開。林縁の木が多く残されているので必然的にチルホールでの牽引伐倒が多くなる
 4時 伐倒終了。小屋に戻りチェーンソーのメンテナンス、目立て
 5時 終了、解散

9時40分 前回と同じ現場、まずみヶ丘平地林内の市有地へ歩いて向かう。伐倒予定本数の半分が残っているのでできればこの三日間で目処をつけたところ。
 今回はイントラがあまり細かな指示を出さないようにして各自の判断での伐倒をもらうことにしました。二班に分かれて伐倒開始

払い機の目立て。インストラクターの方々は皆さん免許皆伝。すべてお任せです」



両先生、刈り払い機の刃談義

二日目 7月5日(金)

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ。「天気予報では明日はほぼ雨ですので今日が最終日と思って心置きなく伐倒に励んでください」とは保科先生。日が照ってきて暑い一日になりそう。体操後出発

9時10分 伐倒開始

12時 昼食

1時 伐倒再開。巷は暑いだろうな、山の中でよかったです、と思えるほどの暑さでした

4時 本日の実践終了。小屋に戻りチェーンソーの手入れ
4時50分 解散



ソーチェーンが半分近く減ったらデブスを落とす

三日目7月6日(土)



フェンス際のアカマツの伐倒。牽引具は欠かせない

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。泣き出しそうな空ながら雨は降っていない。昨日の保科先生の予想は外れてしまいました。昨晚羽目はずした方はいなかったでしょうね
9時10分 伐倒開始。南側半分を担当した後藤、野口班は一日で大方切り終える様子

12時 昼食

1時 再開。天気も一日持ちこた。南側、吉柴さんが最後の大物貯水池脇の杉を倒す。北側の川島、石原班は細いカラマツの連続伐倒。二時半ころNGOカトマンドウの安倍先生がデビさんや隊員の方と一緒に顔を出す。島崎先生も参加するこのNGOはネパールのトリスリ地方の植林、識字、女性自立などの活動を十数年も続けている。デビさんは日本語べらべらの現地教育。今回は妹さんもいっしょに来日。山小屋で二日間の合宿研修だそうです。
3時 実践終了。三日間まったく雨に降られな



試行錯誤を繰り返すうちに自分の型が決まってくる



外野から色々なアドバイスが飛ぶ。時には正反対のものも



最後にスギの大物で締めくくり。ややツルを切りすぎた

第九・十回 伐出

8月23日(金)24日(土)



今回一番の大物アカマツ、35cmバーでの玉切りは苦勞する

かったのはこの時期奇跡的というべきか。お蔭様で事故も怪我もなく終えることができました。お疲れ様でした。皆さん今回、格段の進歩が見られました。次回は十月、また元氣でお会いしましょう
4時 先生方の講評、イントラの感想、解散
参加者/稲垣さん、大月さん、小川さん、片岡さん、金子さん、小泉さん、小林さん、藤本さん、吉柴さん
講師/保科先生、島崎先生
スタッフ/石原、川島、後藤、野口、平林、坂野、早川

次回以降の予定
第七・八回 間伐

7月19日(金)20日(土)

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。ますみヶ丘の平地林で行う予定です。多少の雨なら予定通りやりますので雨

具をお忘れなく。保残木マーク法による間伐です。筆記用具、電卓、お弁当。担当は一日目島崎先生、二日目保科先生です。
さて、通年コースも間伐あたりが折り返し点。皆さんのご希望もあり、19日夕方から暑気払いを行うことになりました。ご都合にあわせご参加ください。実費(千円くらい)かな必要。余興歓迎。差し入れ大歓迎

集中コース夏の部

8月1〜3日(木〜土)

樹木分類、測樹から伐木造材、間伐、できれば伐出まで一通りをやってみたいと思います。参加される方は島崎先生の『山造り承ります』で森林調査の予習をされることをお勧めします。

なお募集は7月9日に締め切らせていただきます。



トリスリの植林センター教官デビさん。チルホールだってお手の物

「リレー通信」

「細胞の甦り」



私が当森林塾を知ったのは、昨年の十月に「森をつくる人びと」(浜田久美子著)を読んだのがきっかけでした。翌十一月、KOAへ問合せ資料を郵送して頂きました。私は山林主ではありませんが、「KOA森林塾のねがい」に共感し、(4)で入塾の意志が決まりました。

(1)地域の小規模山林主に山造りの基本的な考え方と技術を身につけてもらい、自分の山の手入をしてもらいたい
(2)山は持たずとも、必要なときや要請を受けたときに塾で学んだことを生かして山造りをしてもらいたい



柏原自然農塾

(3)地域や日本の森林の現状や施策を知ってもらいたい。
(4)山に入り、山の手入をする。その楽しさと素晴らしいことを知ってもらいたい。
(5)森林の問題を通して、今の自分の生活を見直す機会をもってもらいたい。

島崎先生が「山造り承ります」を出版されていること、その本が塾の教科書として使われていることを知ったのは、KOAホームページの森林塾通信二千年第一号(四月二十八日付p2)を読んだので資料が届く数日前に購入しました。「頭でっかちになっても仕方がない、実践の中で学ぼう」と一通り読んで大切に保存しておきました。(書店に無かったはずの先生の本が「在庫有り」との連絡を受け出勤前に急いで買いに行き、これももなにかの縁かな



はじめての収穫

と感じたことを思い出します。)

私にとって山は、歩くか登るか眺めるか雰囲気を楽しむものでした。山に入ると体中の細胞が甦ってくるような感覚や、気持ちが安らぎ精神が活性化されるように感じたことも有ったのですが...

この十年近くは、山に行くこともほとんどなくなっていました。「自然」と離れ、生産とは無縁な生活をしてきた反動からでしょうか、今の生活を変えたい思いが募ってゆきました。「思い」をずっと温めているといろんな「縁」にめぐり合うようになり「炙りだし文字」のように「したい生活」の輪郭が浮かんできました。「農ある暮らし」です。とはいつても、全く経験したことありません。頭で描いたことに心がどう反応するかそれが問題でしたが、これまでの当森林塾と柏原自然農塾での山の手入れ・米や野菜の栽培

体験を通じて「心が楽しがっているな」と実感できました。

当森林塾ではこの間、植林・樹木分類・測樹・施業診断・林木評価・伐木造材・下草刈りと受講させて頂きました。全て新鮮で楽しいものでした。山の中の受講では、久しぶりに「細胞の甦り」を感じました。受講する度に、もつと深く知りたい・体験したいとの思いが強まりました。「焦らず・諦めず・休まず」で、まずは全受講を目標に通塾し専門コースに進みたいと希望しています。

此の度、リレー通信を書く機会を与えていただいたおかげで入塾までの道のりや入塾の動機、目的などを振りかえり再確認することができました。また、いろんな人やこととの縁で繋がっていることも再認識できました。書いてみたい気持ちも有るのでありますが、二千字程度との紙面の制約もありますのでまたいずれにかの機会にということにしておきましょう。

最後に、通塾を重ねるにつれて伊那に行くというようりも、伊那に帰るといふ感じがしてきています。それだけ伊那が、遠くて近いところになつてきたといふことでしょうか。どうか「縁」が続きますように。祈!

「ブラックロック」

「リレー通信」

「山の恵み」

佐藤 章二



神奈川県相模原市から参加しております佐藤章二と申します。生まれと育ちは愛媛県松山市であります。リレー通信を機会に、なぜKOA森林塾に来ることにあいなつたかを再確認させていただきま

す。

山に遊び、森を学んで行き着いた先は「食」。エネルギーの循環と言えば聞こえはよい。水は美味いし、キノコはあるし、山菜も、岩魚も、猪鹿、鳥...。「山は楽しくなければならぬ」。それには、山が豊かである必要がある。いま流行りの言葉で言えば生物の多様性に富んだ森林となる。しかし、日本の山の現状は、悲惨らしい。

机上と言つた、それも必要な作業だが限界がある。森づくりのポランティアに参加して技術と知識のなさに愕然。正しい山に戻す為木を切る、草を刈れということになるが、これはプロの領域。な

らば、きこりに学ぶ必要がある。それでもつて、これであればしめたもの。いや、そうあるべき、そうでなくてはならない。パラダイスだ。まさに、動機は不純そのものである。年齢とともに体が動かない分、口が動いてしまっているのは、忘れたことにしている。嫁さんは「ついに、そこまでやるか」と、平然としている。

ならば、きこりさんは何処。以前、朝日新聞に載っていた記事を切り抜いていたことと、「山造り承ります」という本を注文するも在庫ナシでキャンセルになって忘却していたことを思い出した。入口が判るかもしれない。早々に注文、また在庫ナシ、山が拒否しているのか。ところが、今回は何故か粘った。数日後再注文、有りました、来ました、この時点で三月二十五日。これはえらいことになつているといふこと、我々の世代が如何に山を見捨てて



いたか、なぜそうなつてしまつたか、どうすれば正しい山にもどせるか…。ボランティアの森造りだけでは数字的どうにもならなくなつていく現実。一步前へ。悩まないとは解決しないし、やらねば先に進まないらしい。しかし個人的に問題が。基本の刃物砥ぎがダメ、最高にへたくそ。チェーンソーも然り。困つた。もしかしたらKOA森林塾とやらに行けば教えてもらえるかもしれない。インターネットでホームページを捜す。「定員、抽選、締め切り四月十日」、ナンダコリヤ。ついに見放されたか。なるようになれと入塾申し込み書をFAXしたのが四月十日の朝。(みなさん、すみません。反省してます。)入塾OKの連絡がきて予算を計算してビックリ、見なかつたことにした。

本職は土木屋です(世間では土建屋とも言つらしい)。今、とつても暇です、儲かりません。下水工事、水道工事、道路工事、治山工事…。時々、丹沢山域の登山道の整備にもお呼びがかかります。神奈川県東の海辺から、ついに県の最高峰・蛭ヶ岳まで来てしまつた。

生きがいは「山の恵み」、どっちが本職かと言われるのが、山と答えている。現在、深瀬信夫氏率いる「深流遡行同人・梁山泊」の最悪不良会員にして、なんと全国森林インストラクターNo.12133でもあります。家族は、嫁さんと娘二人のハレム状態。義務教育の間、自然観察会、登山部と山に関わる遊びに終始しましたが、その後約二十年間、山を忘れ、オートキャンプが流行つた時期に、はたと記憶が呼び覚まされ、キャンプ場通い。しかし、どうもいる場所が違うと、深瀬氏の門をたたき、沢登りの世界へ。其れが間違いだつた。

「山菜があるでしょ、キノコも、岩魚も、水も美味しいですよ」と、甘い言葉。高いところは落ちたら危ないのに「登りなさい、降りなさい」。道が無い所は「へつりなさい」。それでもだめなら「泳ぎなさい」と。文明人のやることではないのだ。なんでこんなことしてるんだ、寒いし、怖いし、重いではないか、馬鹿じゃなかるかと、つくづく思う今日この頃。

今年六月上旬、秋田の大深沢というところに行つて来たばかりです。山は美味しいですね、楽しいですね。山の素晴らしさに感激してそれは何なんだと始めたら森林インストラクター。今度は、きこりさんである。多分、おそらく。まちがいない。嫁さんも、仲間も呆れかえつていて。山が、食うだけじゃなくて、「なんとかせい」と呼んでいるんだからしょうがないではないか。

コラム

木曾。電車はJR中央本線塩尻駅を出て緩いカーブを加速しながらわたつてゆき、木曾路へと入つてゆく。木曾路はすべて山の中である。

木曾というみなさんはどういう場面を空想されるだろうか。自分は、こうだ。国鉄中央本線ではD51が列車を牽き上松駅では駅前の貯木場は反映を極めていて。急カーブの築堤をゆくり上つてきたのは森林鉄道だ。小さなディーゼル機が運材列車を牽いて木曾川を渡つたあと上松までの登りをラストスパート。到着を待っていた別な列車は短い汽笛を鳴らし、空になった運材台車を軽やかに牽

いて山に戻つていく。周囲ではヒノキ材が干してある。遠くでカケスが鳴いた。

「今日はしげれるなあ。ゆきになるんでねえかなあ…」林鉄の脇で畑仕事をしていた源じいさんは腰を伸ばして呟いた。赤沢の自然休養林に行つたことのある方はかつての御料林から御神木を伐採した切り株を見たと思つ。これはでかい切り株である。現場に立ち会いたかつたものだ。伐採には当時チェーンソーはあつたものの木曾式の斧が使われ、祭壇が作られ、神官たちがいたらしい。自分が写真を見ると運び出す様子は諏訪の御柱祭に似ている。そう、なんだかちよつと怖いのである。斜面を落したりしないけど。

まさしく神様の扱いだつたわけだ。赤沢に行くつと、さらにすばらしいことがあり、森林鉄道に乗れる。昔山仕事する人は家族で山に住んでいて林鉄で町に出でいたらしい。通学する子供も毎日早起きだ。理髪車という移動式林鉄床屋もあつて町に行かずに散髪できた。展示車を見ると床屋椅子をはじめ道具がそろつている。ちなみに理髪師は営林署の職員だつたという。木



曾の酒、「中乗りさん」をのんで木曾の空想をされてはどうだろつ。さあ、これは楽しい空想ができますぞ。酒も進みますな。木曾の酒「七笑」には大きい瓶もあるよ!

ところで昔は「檜一本首一つ」といつて御料林の檜の木を無断で伐採することを厳禁していた。飲み過ぎると空想は怖い方向に行くかも知れない。いや、必ずこんな夢を見る。手入れのつもりでチェーンソーで間伐してたら、「こりゃあ!檜一本首一つじゃけんのう!」って熊(九州出身?)が造林鎌もつて追いかけてくるんだ。でもチェーンソーは、高いから捨てて逃げられず捕まっちゃう。ここで汗びっしょりで目が覚めるさ。大丈夫。夢だから。でも覚めないときは困るねえ。保険入つとく?

「カブ夫」

おわりに
専門コースが三回の開催のうち二回目が終わりました。遠いところから何とか都合をつけて集まつてきてくれるだけあつて、皆さん半端ではありませぬ。

早いもので通年コースも間伐が大体折り返し点です。八月はじめには集中コース夏の間も頻りにチェーンソーの音がこだまするようになりまふ。日本中のどの山からもチェーンソーの音が聞こえてくる、そんな日がきて、おとすれまふさかどつか。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994

E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P. http://www.koanet.co.jp

